

2026年（令和8年） 8月4日 火曜日

東奥日報 11面 掲載



高校の教室に新聞を

私たちも使っています！

新聞は、知識の翼を広げる「生きた教材」です。高校生には、青森県内や国内外で起きている出来事に理解を深め、将来を切り開く力を身につけてほしい。東奥日報社はこうした考えのもと、企業、団体、大学などの協賛・賛同を得て県内17の私立高校の2、3年生全クラスに新聞を贈っています。

本事業に関するお問い合わせは、東奥日報社ビジネス局営業部（017-739-1181）まで。

【協賛企業・団体】青森新都市病院、青森大学、青森中央学院大学・青森中央短期大学、上北農産加工、鹿内組、東奥日報販売店会、東北電力、野村證券、八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部、八戸工業大学（五十音順）

読者に伝わる工夫
祖父母が新聞を読んでいたことがきっかけで、読み始めました。当時は、習っていたサッカーなどのスポーツ記事を見るだけでしたが、年齢を重ねるにつれて、日本や世界の情勢に関する記事にも目を通すようになりました。
新聞は文章量が多く、読むことに抵抗がありました。見出しや写真で読者に情報が伝わるよう工夫されています。読み始めると止まらなくなるのが、新聞の面白さだと思います。

あきやま こうき
秋山 光希さん
普通科特別進学コース3年



八戸学院光星高校

新聞を読むことで、世界の出来事から地域の身近な話題まで幅広く知ることができると感じています。紙の新聞は全体を一度に見渡せるので、思いがけない記事との出会いがあるのも魅力です。
また、多様な視点から丁寧に書かれているため、視野が広がり、物事を深く考える力が身に付きました。さまざまな記事を読む中で、自分なりの考えが持てるようになったと実感しています。

偶然の出会い楽しみ

かねた もえみ
兼田 萌生さん
普通科特別進学コース3年



東奥日報社提供

この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです